

# 緊急告知!! 「アート」の学び展」@富岡市立美術博物館

アートによる共生社会構築のための“アートインクルージョンの練習問題”

テーマ：“分けない”アートの学び展を、美術館で：遊び / 学び、障がい / 健常



“ちがいが響きあうアートの学び展” 分けない美術館をつくる。  
私たちは今、「分けないアートの学び展」\*\*を美術館で実現しようとしています。  
この展覧会では・あそびと学び・表現する人と鑑賞する人・障害のある人とない人・アートとサイエンス……  
といった境界を分けず、誰もが表現し、誰もが感じ、共に学ぶ場をつくりたいです。  
美術教育研究者、美術教員、アーティストが集まり、インクルーシブな学びのかたちを美術館という公共の場でひらく挑戦です。  
ちがいを分けるのではなく、ちがいが響きあう社会へ。その第一歩となる展覧会を、ぜひ皆さんと一緒に作りたくと思っています。



①アート学習のインクルージョン：「分けない」からアートの学びを考える：アート教育思想史からはじまり、古川聖「インタラクティブアート」、布山タルトによる「KOMA OTO」、彫刻家・三輪途道と千葉県立視覚支援学校生徒らによる「手で見る展示」、麦わら屋の作品展示と映画「うたうかなた」、現代アートから学ぶセゾン美術館「あそびじゅつ」など。

図版1「自由と創造の戦後アート教育史」：私たちの日常は均質化されふわふわ浮いたような生活になっています。地に足を着けて歩むために今一度歴史をふりかえります。



図版2 通級教室「ことばの教室」で繰り広げられる子どもたちの表現活動にはうそがない。アートの本当の学びを考えるヒントがここにはある。今子どもたちに本当に必要なアートの学びとは何か…教わることの方が多いなと思ってしまう。

**2026.9.5 (土)~11.1(日)**  
**期間中関連シンポジウム、WS あり!!**



図版4「三輪途道作品」：群馬県下仁田出身の全盲の彫刻家の作品。触りやすいようにビー玉が練り込んである。  
アートは目（視覚）だけで見るのが鑑賞ではない。彫刻はむしろ手（触覚）でみるものだ。見えない人・見える人・煮えにくい人がいっしょにするアート鑑賞体験。ここに新しい発見とインクルージョンがある。

**クラウドファンディングやっています！**  
**美術館は山の上にアクセスが悪いです！**



図版5「塩川岳 エアードーム」：群馬富岡製糸にちなんで2つのドームが繋がった蕨型をつくります。塩川岳は毎日のように学校やコミュニティスペースに出かけて、子どもたちとアートをつくる。まさにアーティストはヒトモノコトをつなぐメディアとなっている。

<https://shiokawa-takeshi.com/>

**皆様のお越しをお待ちしています**  
**総合 D：茂木一司 (跡見学園女子大学)**